



有漢地域センターが完成 (2月25日 有漢地域センター)

有漢地域の拠点となる「有漢地域センター」が完成し、地元住民ら約250人が出席して、落成式が行われました。この施設は、保健センター、生涯学習センター、有漢地域局が入る複合施設です。ガラス張りを多用し、無駄のない照明設備や地下水の利用、夜間電力の活用など環境に配慮した設計となっています。式典後、地元住民らによる備中神楽が披露されました。

自分たちの手で成羽川をきれいに (2月12～13日 成羽川河川敷)

「なりわ川をきれいにするボランティアの会」の主催で成羽川河川敷の清掃作業が行われました。2日間で約400人のボランティアが参加。成羽川がみんなの憩いの場になればとの思いを込め、立ち木の伐採、ごみの回収、葦の刈り取りなどの作業を行いました。なお、今回刈った葦はブドウの土作りに再利用されます。



100歳おめでとうございます (2月26日 養護老人ホーム成羽川荘)

大山秀一さん(川上町上大竹)が100歳の誕生日を迎え、市長らが養護老人ホーム成羽川荘を訪問して長寿を祝いました。花束や記念品を手渡されると満面の笑みを浮かべて感謝の言葉を述べられました。長寿の秘訣は「晩酌でちょっとのお酒をいただくこと」だそうです。市内の100歳以上の人は3月2日現在で21人(男性2人、女性19人)。



踊りや寸劇・・・熱演！ (3月6日 ひらかわいこいの家)

備中町平川地域内の市民が集う恒例の「第10回平川地区ふれあい文化祭」が開かれました。日ごろからサ・クル活動などで練習を重ねている各種団体が、大正琴や民謡踊りなどの芸能を披露しました。「国体選手の民泊受入ボランティア会員募集」を題材とした手づくりの寸劇も行われ、会場に集まった約300人は歓声を上げていました。また、地元で栽培されたひょうたんの品評会や手芸品、ちぎり絵などの展示もあり多くの人たちの目を楽しませました。



郷土の偉人「山田方谷」をしのんで (2月11日 高梁総合福祉センター)

幕末の備中松山藩で藩政改革を行った山田方谷をしのんで生誕200年祭(高梁方谷会主催)が開かれました。明治末に方谷園(中井町西方)の開園式で歌われた賛歌「山田方谷」が95年ぶりに復活合唱されたほか、方谷の漢詩吟詠なども行われ、市内外から参加した約200人は、方谷の遺徳をしのびました。



音楽を通じて国際交流 (2月11日 総合文化会館)

チェコ共和国の青少年コーラス「サシャーツイ」と高梁少年少女合唱団は、合同で「ラドスト(楽しい)コンサート2005」を開催しました。会場を訪れた観客約800人は、透明感のある美しい歌声に聴き入っていました。



明日の高梁市のために (2月12日 文化交流館)

「新高梁市小学生サミット」(青年経済協議会主催)が開かれ、市内12校の5、6年生約40人が市長、教育長らと、学校の統廃合や校舎の耐震性、公園整備などについて活発な質疑応答を行いました。午後からは、山陽新聞社主催の新しいまちづくりを考えるシンポジウム「語ろう高梁市の未来」があり、市内の中堅・若者代表ら6人が、地域おこしや観光振興などを市長らに提案しました。



900人が健脚競う (2月13日 市役所前スタート・ゴール)

岡山国体記念の第26回愛らぶ高梁ふれあいマラソンが開かれ、8、5、3kmの3コース13部門に900人が出場しました。参加者は、城下町の風情の残る市街地を沿道からの声援を受けながら懸命に駆け抜けていました。大会には、元天満屋陸上部で国際マラソンの優勝経験がある松尾和美さんがゲスト出場。また国体のマスコット「ももち」も3kmを完走し国体をPRしました。

